



く せ ん 薫 泉

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、しようぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

人の温かさに触れて

副校長 中村 正人

秋も日増しに深まり、少しずつ冬の訪れを感じる季節になりました。新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、年度当初は五月に実施を予定していた運動会を今月に児童のみ、原則、参観者をお招きしない形で実施することができました。今までに経験したことのない、徒競走と団体競技を中心とした、できる限り短い時間での実施となりました。しかし、児童一人一人は、演目を成功させようと例年に負けない位、集中して練習から取り組んでいて、実に立派でした。地域の方々や保護者の皆様には、ご来校を控えて頂くなど、ご不便とご迷惑をおかけして、申し訳ございませんでした。「運動会」というと、私には忘れられない出来事があります。それは私が六年生の担任だったときのことです。二学期は一年間の中でも一番、学校行事が多く、そのとき六年生は連合運動会にも参加していました。運動会が近づくにつれ、毎日、朝早くから練習が予定されていて、日増しに自分に余裕がなくなっていました。

しかし余裕がなくなっても、朝の練習が始まれば、児童が登校するよりも前に出勤して準備をしながらはなりませんし、他の教員もこの時期は、自分が担当する学級や学年のことで精いっぱいであることも分かっていたので、どうすることもできませんでした。

そんなある日、いつも通りに出勤すると私よりも早く校庭に出て、黙々とラインを引く先輩の姿

がありました。しかもその日以降も毎朝、早くから学校に来て、準備や後片付けを手伝ってくれたのです。その先生も自分の学級や学年のことばかり忙しかったはずですし、人の手伝いをすれば、自分も更に大変になることは承知の上で、手伝っていたらその気持ちと優しさに触れ、私は言葉を失いました。

計画的に物事を進めようとしても、状況によっては、どうしても一人で仕事をしなくてはいけないときがあります。そのような私にいち早く気付き、頼まれてもいないのに自ら手を差し伸べていただいたその先輩の優しさを私は今でも忘れることができません。

今回のコロナ禍により、今までの生活様式や学校行事の取り組みは少しずつ見直され、人とのかわり方も以前とは違う「新しい生活様式」が始まると思われれます。しかし、今後も相手を思いやる気持ちは大切にしていきたいです。

「今できること」の中で児童は全力で演目に取り組み、それを多くの地域の方々や保護者の皆様に温かく見守っていただいたことに改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

体育指導補助員の紹介

十月二十六日(月)より体育指導補助員として猿渡葉月(さるわたる はづき)さんの任用が始まりました。体育の授業の準備や片付けの手伝いと、休み時間に外遊びを奨励することが主な仕事です。



なかよし班活動

特別活動部

なかよし班活動とは、一年生から六年生の異年齢グループを編成し、六年生が中心となって遊びを中心とする活動です。今年度は『異年齢交流を通して、「社会性の基礎となる部分」の「人と関わりたい」という意欲を育み、「人と関わる喜び」を自ら獲得できるようにする』をねらいに、九月から月に一度のペースで取り組んでいます。まずリーダー会(六年生三十名)を開き、その後六年生会議(全員)をして詳細に活動計画を立てます。そして、担当の教員にアドバイスを内容を確認してもらいながら本番当日を迎えます。当日、校内の全ての班を見て確認したところ、どの班もリーダーを中心に楽しそうに活動していました。また、下級生たちがリーダーを慕う様子が、多くの班で見られます。事後の振り返りもしっかり行うことで、活動の質も少しずつ向上しています。今年度は新型コロナウイルス予防のため、思い切った活動ができないことが残念ですが、感染予防の観点ももたせながら、「その中で何ができるか」を六年生の学びにつなげてほしい、また、その姿を次のリーダーの五年生がしっかり受け止め、バトンを引き継いでほしいと願っています。

十一月の生活目標

進んでよいことをしよう

生活指導部

「一日一善」という言葉があります。「一日に一つ良いことをしましょう」という意味の四字熟語です。矢口小学校の子どもたちは日々日直や係活動、清掃活動など、様々な仕事を行っています。生活指導部では、自分の役目を果たすとともに、各々が自分のできることを見つけ、進んで行動できるような活動の大切にしてほしいと考えています。今後多くの成長の機会をつくり、「一日一善」自ら活動する子どもたちの姿を目指して指導していきます。